

多様なステークホルダーとの対話から

グループの「重点課題」を改定

環境・社会課題を取り巻く
世界規模での変化に対応

2022年3月30日、セブン&アイ・ホールディングスは、2014年に特定した5つの重点課題を改定し、新たに7つの重点課題を公表しました。2014年の重点課題は、検討すべき社会課題の抽出を行い、多様なステークホルダーからの意見収集、重点課題候補の作成、ステークホルダーとの対話というプロセスを経て特定しました。これは、2013年に公開されたGRI(※1)の企業の持続可能性に関するガイドラインに基づいたもので、当社グループの持続可能な成長やステークホルダーの評価・意思決定とくに影響をおよぼすと考えられる社会課題のリスクと成長機会を客観的に評価し、特定しました。

しかし、この重点課題の特定以後、2015年には国連でのSDGsが採択、2016年には気候変動問題に関する国際協定「パリ協定」が発効されるなど国際的な枠組みが相次いで更新されました。また、海洋プラスチック問題や人権問題への国際的な

関心が著しく高まるなど、環境・社会課題をめぐる情勢も大きく変化しました。こうした流れを受けて、企業の具体的な取り組みへの要請も一段と高まる中で、当社は一昨年から重点課題の見直しに向けた検討を進め、多様なステークホルダーとの対話を通じて、グループ全体の企業価値向上と社会課題の解決による経済価値の創出の方向性を客観的に評価し、重点課題を改定しました。

※1: Global Reporting Initiative(サステナビリティ報告書に関する国際基準や情報開示の枠組みを策定することを目的とした、国際的な非営利団体)

5000件を超える ステークホルダーの「声」

今回の改定では、国内のセブン・イレブン加盟店オーナーや海外の7-Eleven, Inc.を新たにアンケートの対象に加えるなど、前回規模を上回る多様なステークホルダーの皆様からご意見をいただきました。具体的なプロセスとしては、まず社会課題に関する国際的な枠組みや中期経営計画で検討した外部環境、ESG評価機関の調査項目などをふまえて480項目に上る社会課題を検討。そこから35項

目を抽出し、7-Eleven, Inc.を含むグループ9社(※2)の役員・従業員と国内のセブン・イレブン加盟店オーナー、お取引先、株主・投資家、お客様を対象としたアンケートを実施し、5000件を超える回答と1000件以上のコメントをお寄せいただきました。このアンケート結果を整理し、当社およびグループを代表する事業会社3社、有識者との対話を実施。さらに、グループ経営にとっての重要度とステークホルダーにとっての重要度をかけ合わせたマトリクスを作成し、特定プロセスで得たステークホルダーの皆様の意見などを加味することで重点課題を特定しました。

※2: セブン&アイ・ホールディングス、セブン・イレブン・ジャパン、7-Eleven, Inc.、イトーヨーカ堂、ヨークベニマル、ヨークソール・西武、セブン&アイ・フードシステムズ、セブン銀行

対象の明確化と 「自分ごと」にする表現

今回の改定では明瞭な表現に配慮しました。具体的には、前回の5つの重点課題の一つである「社内外の女性、若者、高齢者の活躍支援」を、対象者をより明確にするために社外と社内に分けてとらえなおし、「多様な人々が活躍できる社会を実現する」とグループ事業を担う人々の働きがい・働きやすさを向上する」の2項目にしました。また、前回「お客様、お取引先を巻き込んだエシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上」としていた点も、今回は「お客様との対話と協働を通じてエシカルな社

会を実現する」「パートナーシップを通じて持続可能な社会を実現する」と明確にしました。

重点課題はグループのすべての役員・従業員が、日々の仕事の中で実践していくことが重要と考え、一人ひとりが自分のこととして、能動的な行動に結び付けられるように、すべての項目で「〜する」という動詞表現を採用しています。

経営に課題解決を 実装[※]するための

重点課題を事業経営の根幹に置き、日々の営業活動に結び付けるために、当社グループでは、今回の重点課題の特定プロセスの一環として、事業会社ごとに重点課題の共有に向けた説明会を開催。各事業会社では、重点課題を今年度の行為計画に反映し、具体的な施策を通じて課題対応に取り組んでいます。当社グループでは重点課題を実践するには、グループの全従業員が思いを一つにすることが大切だと考えており、わかりやすく、営業活動の中でも掘り所にできる明瞭な表現を用いることで、具体的な行動につながるように理解浸透を図っています。このため、セブン&アイグループでは、SDGコンパクト(※3)などを参考に目標達成に向けた具体的な行動計画を策定し、今後も本業を通じた課題解決に向けた取り組みを進め、社会課題の解決と成長機会の拡大を図っていきます。

※3: SDGコンパクトGRI、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)の共同作成による、企業がSDGsに取り組むための行動指針

重点課題1




お客様とのあらゆる接点を通じて、地域・コミュニティとともに住みやすい社会を実現する

重点課題2




安全・安心で健康に配慮した商品・サービスを提供する

重点課題3




地球環境に配慮し、脱炭素・循環経済・自然と共生する社会を実現する

重点課題4




多様な人々が活躍できる社会を実現する

重点課題5




グループ事業を担う人々の働きがい・働きやすさを向上する

重点課題6




お客様との対話と協働を通じてエシカルな社会を実現する

重点課題7




パートナーシップを通じて持続可能な社会を実現する



重点課題の
特定プロセス

明日にいいこと。つなげる、つづける。